

# 臨床のきれはし

Sheet23

浅田 英輔

## Managing Training

何度か書いているが、今の私の本業は県庁の人である。地域共生社会の推進とか多職種連携体制の強化とかそういうことをやっている。それって、実際なにしてるの？と聞かれることもあるが、すごく簡略化して言うと、「打合せ」か「研修」である。

いろんな人といろんな形で打合せをしている。市町村役場や地域包括支援センターの人とか、ケアマネとか保健師とかリハ職の人が多く、あとは地域で活動している人とか。県庁内でも企画部門とか農林部門とかでも地域づくりにかかわっている人はいるので、そういう人たちと「次どうしようか」というような話をする。日程調整して大人数で会議みたいにやることもあれば、県庁内で他課にいきなり行って「ちょっとこの話なんだけど」と5分10分話すことも結構ある。市町村役場だと、青森県は広いので、家から4時間半くらいのところに行ったりもしている。往復9時間運転。新幹線で東京往復より遠い。狂気。佐井村ですよ！

そんな遠いところに行くのって、オンラインでいいんじゃないの？と思うのもごもっともで、何度か定期的にやるならオンラインでもいいんだけど、1回2回だと、どうしても、対面ですよ。オンラインでもぐいっと相手に踏み込むことができなくもないけど、やっぱり対面で「んで、ぶっちゃけさ？」とかいって相手に踏み込んでいくパワーにはかなわないのよね。

もう一つの仕事である研修について。ここ3年ほど、毎年10本くらい研修会を主催している。それなのに、毎回忘れ物があるというのは困ったもんだ。

研修運営でやることは、この4つがある。

- ① 企画
- ② 事前の手配
- ③ 参加者募集
- ④ 当日運営

### ① 企画

これについては、やり方次第だと思う。青森県弘前市で20年続けている団先生の研修会であれば、この段階はほぼ不要だ。やることは決まっているから、企画することはほぼない。前年に日程さえ決まっている。ラクチンである。

このところ本業でやっている「多職種連携強化研修会」も、そんなに多くはない。講師が決まっていて、目指すものがわかっているので、講師と「今回なにやろうか」と相談すればおおむねOKである。

初めてやる研修とか、いつもやっているけど中身は毎回違うものとかでは企画段階がとても大事で、この段階で少し広い視野が必要。心理学会の会員への研修会であれば、会員の希望をきいたりすることもよいが、「ウチの会員に身につけてほしいことはなにか」「足りていないスキルはなにか」「いまこの時代にわれわ

れに必要とされていることはなにか」という視点が必要である。企画者がやりたいことをやるというのでもよいのだが、そこにもやはり意図・ねらいはほしい。「こういう希望が多かったので、これをやります」というのは、「会員の意見を尊重します」という偽善のよとの無責任でしかないと思う。これは会員などだとわかりやすいが、例えば住民対象の研修会でも同じである。ちょっと偉そうな視点から「うちの市民には、これを理解してもらいたい」という考え方が重要になる。そういう考えのもと、企画する。講義がよいのか、ワークショップがよいのか。もしそうなのであれば、何をを目指すのか。参加者に何を伝えたいのか。これは、講師ではなく企画者が考えなければならない。これがあまりない企画側というのが結構ある気がする。講師依頼を受ける機会も増えてきたが、「もうちょい考えてからよこせよ」と思うことも少なくない。そういう、企画側があまり考えてない研修講師依頼は、当然講師側もやる気おきないよね。

（よく知っている人から「いい感じにお願い」と言われると「よっしゃまかせとけ」となることもある）

## ② 事前準備

研修運営という、ここからのことを考える人が多いように思う。会場確保と講師日程確保、ここがとにかくストレスフル。決まらない。会場とれない。ムカつく。講師が複数だったりすると調整がつかない。イラつく。でもここが決まれば、もう大丈夫。なんとでもなる。あとは、資料準備とか機材準備とか会場設営を考えると、かそんなのは事務的にちゃっちゃとやればいい。印刷は時間かかるので、はやく全部データになればいい。オンラインの場合は資料配布がないのでだいぶラクチンですね。お願いします、講師の皆さんは、配布資料を早くください。

## ③ 参加者募集

ここだね、ここ。会員対象の研修会なんかはラクチン。①の段階で会員に適切な企画ができていれば、

会員に案内を送ればよいだけ。いいものであればみんなくるし、そうでないなら来ないだけ。わかりやすい。

青森県公認心理師・臨床心理士協会では、コロナ明けてから公開講座を開催しています。これ、すごい気を遣うんですよ！会員の参加者である程度の人数は確保できるけど、一般参加者にもたくさん来てほしい。ステキな講師をお願いしていても、「何人くるかなー」「締め切り前だけど、まだこれだけかー」とかやきもきます。こういうときは、どこにどういう形で宣伝するかがとても大事になります。たぶん、新聞やTVで宣伝するのいいと思うんだけど、それは予算的に難しい。お願いできる場所をお願いして、使えるものはなんでも使う。こういう広報の仕方がとても大事になるし、すごい大変。参加者募集の大変さがない研修なら、いくらでもやります。

## ④ 当日運営

ここまでできているのであれば、当日運営なんてなんとでもなります。大変なのはハイブリッドでやるときの機材準備と不具合くらいですかね。「司会緊張するー」とかいう人いるけど、準備ができていればなんとでもなります。失敗してもそんなのは失敗のうちに入らない。勝手に緊張しとけ。資料足りないとかアンケート準備忘れたとかミスはあるけど、ほとんどのことは「ごめん」で済むんですよ。あとで冗解可能。冗解。変換ミスだけど。電源とHDMIケーブルは長いのを持っておいたほうがいいよ！あとは、会場設置のプロジェクターが古いととてもがっかりする。

というふうに、日々打合せと研修をやっています。研修講師も場数ですけど、研修運営も場数が大事ですね。どんどん研修主催すると、どんどんうまくなりますよ！